

ちやぶちやっぶんの話

こうざき みえこ 作
上 崎 美 恵 子



おうぶんじや としよみ
旺文社ジュニア図書館

ちやぶちやつぶんの話

はなし

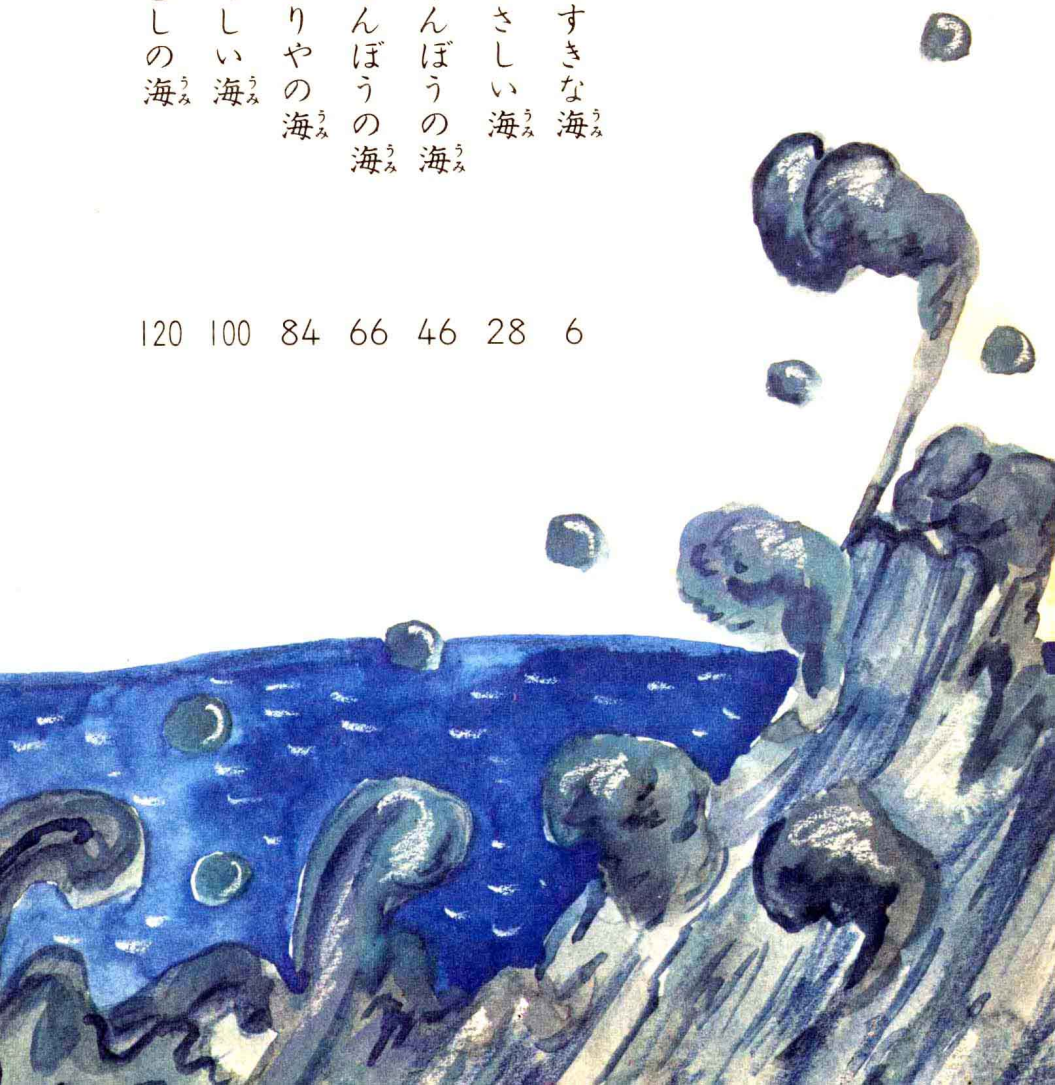


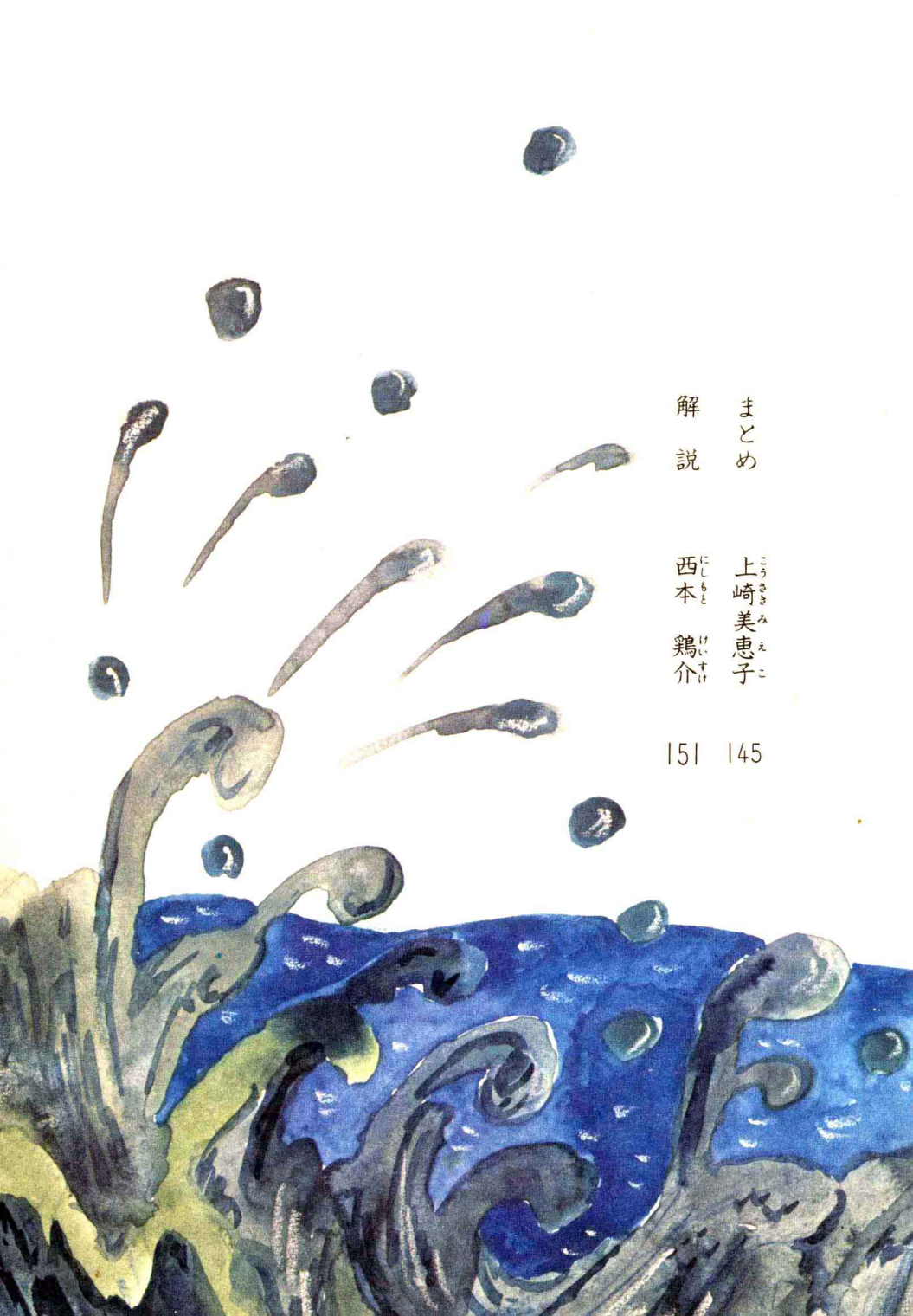
井上 洋介 絵

上崎美恵子 作

- (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)
- なきむしの海^{うみ} おそろしい海^{うみ} こわがりやの海^{うみ} くいしんぼうの海^{うみ} おこりんぼうの海^{うみ} 心のやさしい海^{うみ} うたのすきな海^{うみ}

120 100 84 66 46 28 6





ま
と
め

解
説

上
崎
美
恵
子

西
本
鶏
介

151 145

An artistic illustration of a child from behind, wearing a large, round, brown straw hat with a ribbon. The child is looking out at a vast, deep blue ocean under a dark, starry night sky. The water is depicted with white, swirling, ethereal patterns that look like smoke or mist. In the foreground, the child's back and the hat are rendered in a textured, painterly style. The overall mood is contemplative and serene.

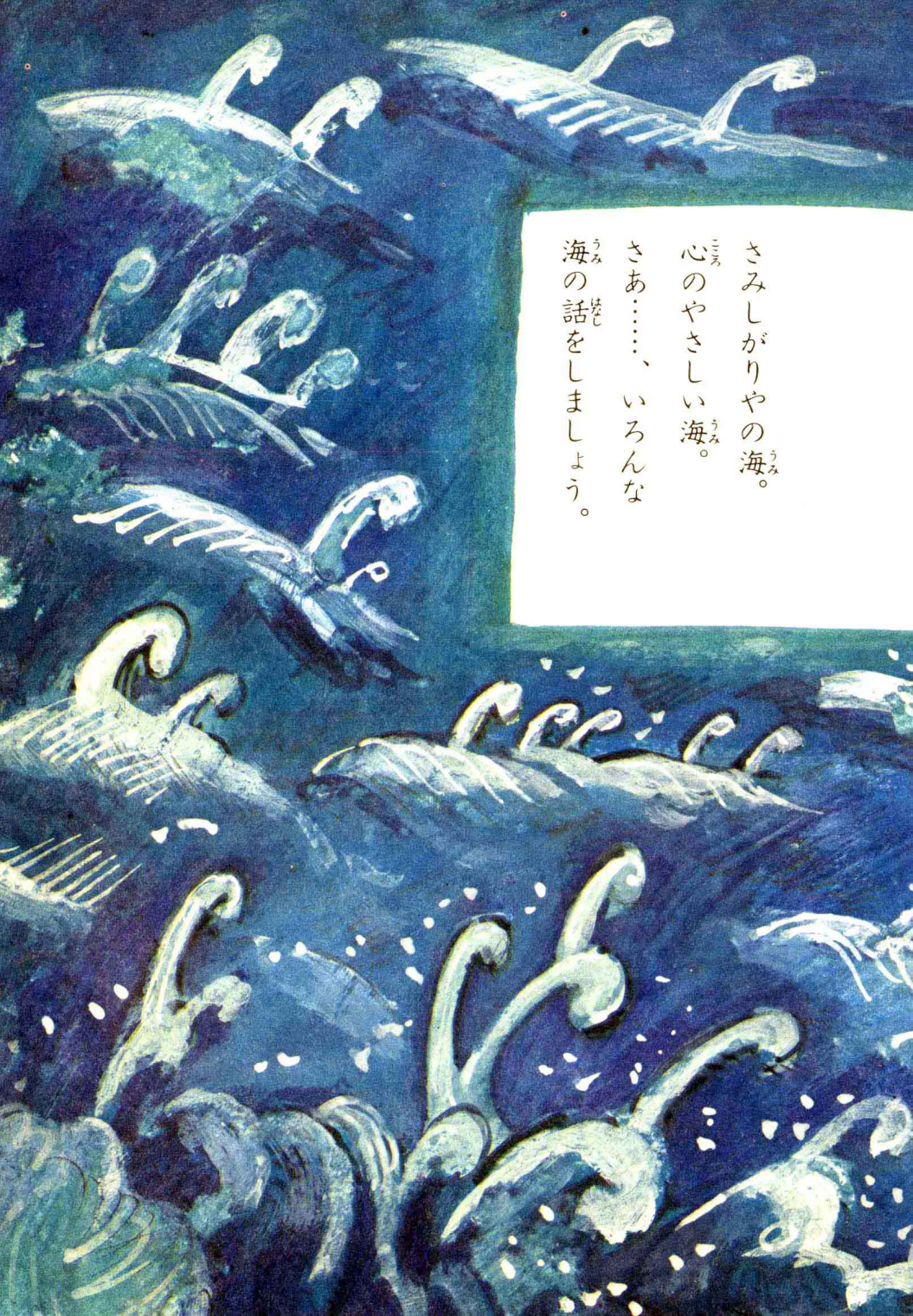
海には……、

いろんな海があるのです。

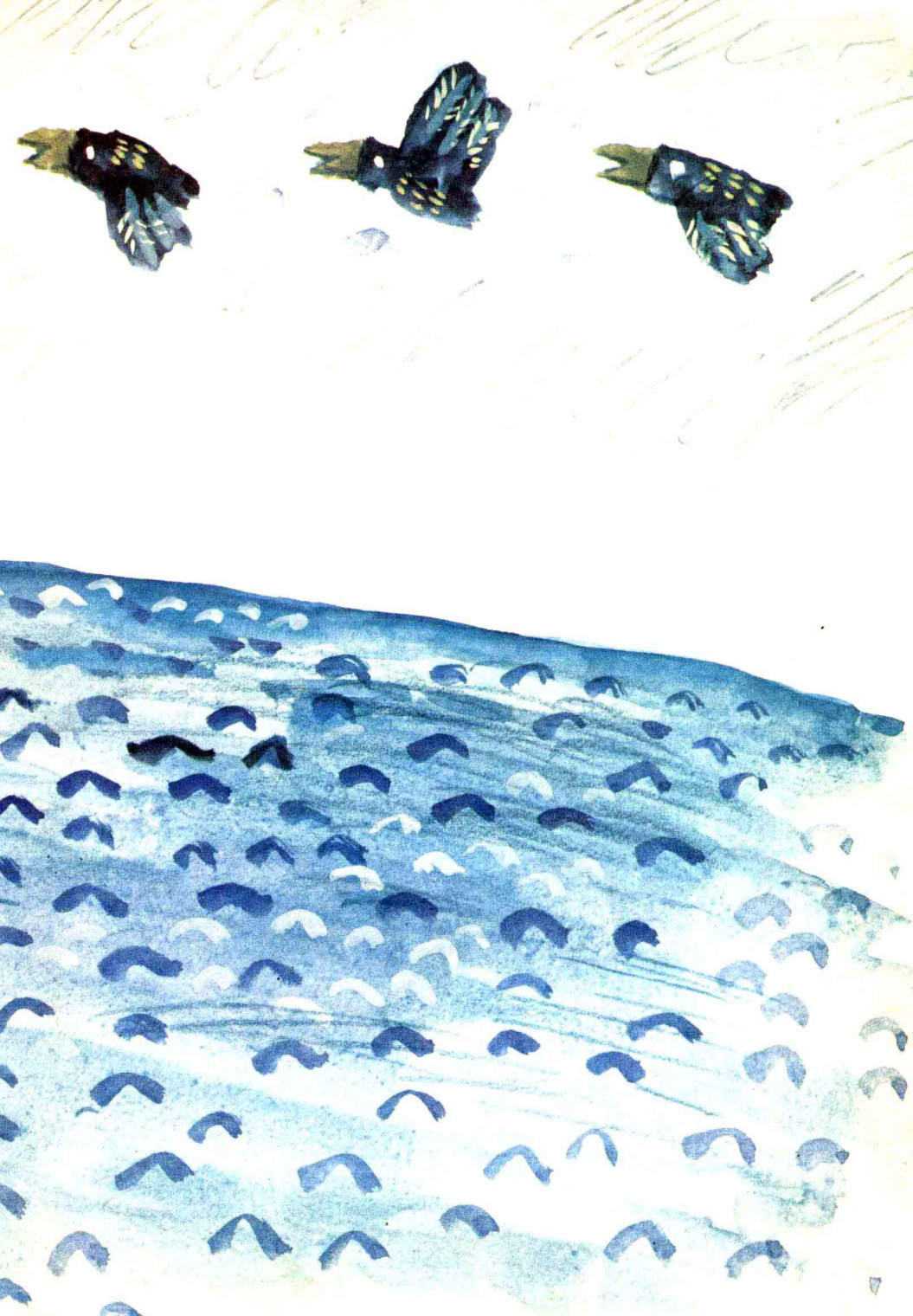
さむい北の海。

あつい南の海。

くいしんぼうな海。

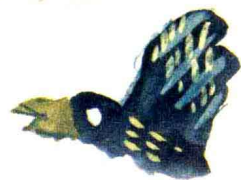


さみしがりの海。
心のやさしい海。
さあ……、いろんな
海の話（はなし）をしましょう。



(1) うたのすきな海^{うみ}

ひろい海^{うみ}のまん中^{なか}に、かわいい女^{おんな}の子^この海^{うみ}がおりました。
女^{おんな}の子^このせいか、うたがすきでした。



けれども、海^{うみ}なので、うたのもんくを思^{おも}いつくことができません。

ちやぶ　ちやつぶん

ちやぶ　ちやつぶん

と、同^{おな}じうたばかり、うたっておりまし。

あるとき、海^{うみ}の上^{うへ}を、わたりどりが、

「くおう、くおう、くくく、くおーつ。」

と、鳴^なきながら、とんでいきました。

女^{おんな}の子^この海^{うみ}は、いいもんくをおほえたと思^{おも}いました。それから、いつも、

ちやぶ　ちやつぶん

ちやぶ　ちやつぶん

くおう　くおう

くくく くおーっ

と、うたいました。

しばらくしてから、海うみの上うへを、ひこうきが、

ごうごう ごうごう うんうんうん

と、とびました。

それから、女おんなの子この海うみは、うたのもんくをかえました。

ちやぶ ちやつぶん

ちやぶ ちやつぶん

ごうごう ごうごう

うん うん うん

こんなふうにです。

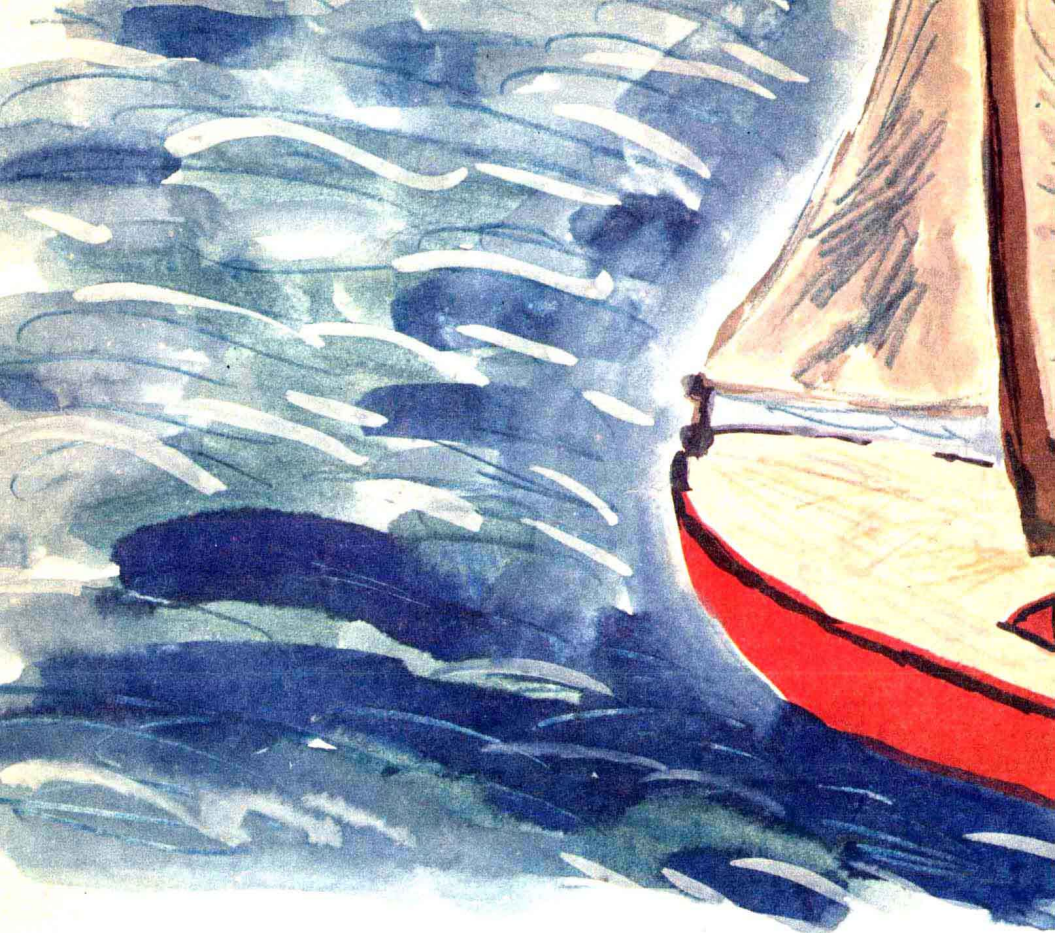


あるとき、女の子の
海に、白い帆をあげた
ヨットがすべってきました。

ヨットの上では、ひ
どりの青年がギターを
ひいて、女の人がうた
っていました。

ルララ ルララ

あたしは にんぎょ



ルララ ルララ

きぼうの きしは

ルララ ルララ

もうすぐ そこよ

白い帆ほのヨットは、

遠くへとおいってしまいま

した。

女の子おんなの海うみはニカニ

カ、キラキラ、わらい

ました。

「いいうた、おぼえちやつた。いいうた、おぼえちやつた。」

女の子の海は、それから、ヨットの女の人の声のまねをしました。

ルララ ルララ

あたしは にんぎょ

ルララ ルララ

きぼうの きしは

ルララ ルララ

もうすぐ そこよ

☆

あるとき、あらしがきました。

女の子の海は風にゆすぶられ、雨にたたかれて、たっぶん、たっぶん、ゆ

れました。

あらしがおさまったとき、女の子の海はくたくたにつかれてしまつて、波もたてずに、ねむっていました。

目をさましたのは、おひさまが空高くあがつたころでした。

女の子の海は、小さなあくびをしました。

すると、海のそこから、あわが、ぶくんと、あがつてきて、ぽかんと、はじけました。

「あら、なにかしら。」

海の上に、見なれないものが、うかんでいました。

きいろいゴムボートでした。

ゴムボートの上に、五人の男の人がのっていました。

漁船ぎよせんの船員せんいんさんたちでした。

りようにでて、ひき返かえすとちゅう、あらしにあつて、漁船ぎよせんがしずんでしまつたのです。

それで、ゴムボートにのつて、海うみをただよっていたのです。

船員せんいんさんたちは、つかれきつているうえ、のどはからからにかわき、おなかもすいていました。みんなは、ボートをこぐ元氣げんきもなくなつて、ぐったりと、たおれていました。

女の子おんなこの海うみは、ゴムボートの人ひとたちが、だまつているので、どうしたのかしらと思おもいました。

「あたしのうたが、ききたいのかしら……。」

女の子おんなこの海うみはにっこりしました。



「いいわ、うたつてあげる！ きいてね！」

女の子の海は、声をはりあげてうたいました。

ルララ ルララ

あたしは にんぎょ

ルララ ルララ

きぼうの きしは

ルララ ルララ

もうすぐ そこよ

ゴムボートのそこに、たおれていた船員さんたちは、顔を見あわせました。

「いま、うたがきこえなかったか。」

「女の子の声だった。」